

令和7年度 第2回宮崎県観光審議会議事録

【議事】

＜本県の観光振興計画の改定の諮問＞

資料1・2により、観光振興計画改定スケジュールおよび本県観光の現状を事務局から説明。

(委員)

○ 「高付加価値旅行者」の具体のイメージは。

(観光推進課長)

○ 観光庁の定義では着地型消費で100万円以上の方。

観光消費額の増も目指すが、特に、その土地ならではの体験・食・歴史・文化を生かした取組を充実させ、通過型から滞在型の観光を進めていきたい。

(委員)

○ 県として、高付加価値型コンテンツを持つ方を登録する制度はあるのか。

(海外誘致・MICE担当リーダー)

○ 地域DMCで、高千穂町と高原町で活躍されている事業者があり、海外エージェントから相談があった際は、これらの事業者を紹介しており、受入事例を積み上げて今後の展開を図りたい。

(委員)

○ 既に単価の高い旅行商品があるので、金額のみではなく、市場の希望を踏まえることが大切だと感じている。

(委員)

○ 5つのSの取り組みの説明があったが、幅が大変広いため、宮崎の観光地といえばこれを想起してほしい、というものは何か。

(商工観光労働部長)

○ 本県観光の魅力が十分には伝わっていないと感じている。どのように組み合わせていけばより発信できるかを考えていく必要があると感じている。

(委員)

○ 取組4のスポーツは目標を着実に達成している。取組1～3の観光面でも、目標を達成するため、チャレンジしている取組があれば教えていただきたい。

(観光推進課長)

- 宿泊業の基盤整備として生産性の向上の取組に対する支援や、人材育成として、観光関連を学ぶ学生に対し、インターンシップの受入調整を行い、本県での採用に繋がった事例などがある。

(商工観光労働部長)

- チャレンジの象徴的なものとしては 2年前のひなたフェスのサンマリンスタージアムでの開催。野球場をフェス会場として使用するためのハードルは高かったが、実施できた。コンサートに加え公園スペースでのイベントなども合わせた全体での参加者は大変多く、県内周遊も図れた。今までできなかったことを超えたチャレンジができ、今年2回目も開催されるため、さらに多くの来県者が見込まれると考えている。

(委員)

- 今までやってこなかった事をやっていく事がとても必要だと感じている。例えば、今まで不可となっていた場所での、ペット入場や車中泊・RVを可能とすることなどができれば、より宿泊者数が増えると考えている。

(委員)

- 高千穂ではプライベート神楽を提供している旅行会社があり、クルーズトレイン「ななつ星」のツアーとして、毎週水曜日に組み込まれており、また、台湾からのチャーター便のお客様の予約も多い。こういった取組は、地元の方の継承意欲にもつながっている。

(委員長)

- 「伝える」ということについて。グーグルビジネスプロフィールを活用した調査を行った際、8割の方は旅行先に来てからではなく、旅マエに調べて観光先の決定していることがわかった。Web上に表示される情報が良いものであるほど、多く検索され実際に来ていただいている。Web上での力の入れ方で差が大きいので、見る方の立場に立って掲載内容を考えるといったことを、それぞれの事業者が心がけることで、より効果的な情報発信が出来ると考えている。

(委員)

- 宿泊業は課題が多い業種ではあるが、宮崎市内の状況としては新しいホテルの参入やブランドがあり、変わりつつある。
- 国際水準のひなたテニスパークが出来て、世界に名だたる大会に準じる大会が本県でも開催できて、またそのPRの場として、国スポ障スポもあり、参加者・観客の方たちが泊まりたい、選ばれる宿泊施設になるよう、既存の宿泊施設もチャレンジを行う年であると認識している。

(委員)

- 延岡は、ダイビングやロッククライミングなどの潜在的な魅力が積み重なって観光客が増えてきていると感じる。また、延岡は交通の便が良く、青島・別府・高千穂などを周遊することを目的とした外国人の宿泊の方が増えてきている。ただ、九州各県、県内でもそれぞれの地域で課題や状況が異なるため、各地域同士の情報交換は大変重要だと感じている。

(委員)

- 海外から合宿で宮崎に来られる方のうち、長期滞在の方は、ある程度安価で、かつ、畳の部屋を希望される方も多い。ホテルなどは現在洋室に改修されており、どういうところを勧めたらよいか。

(スポーツランド推進課長)

- 合宿の人数や希望がそれぞれ異なるので、県観光協会の「ひなたスポーツ観光ステーション」に問い合わせいただいた際は、競技会場などの条件を鑑みて、要望に応じた施設などを案内している。また、現在、市町村が合宿所整備をする際の支援もしているため、宿泊施設も充実していくと考えている。

(委員)

- 「ひなたスポーツ観光ステーション」については、野球・サッカー・陸上・サイクリングなど毎日様々な問い合わせがあり、その対応を通じ受入が増え、通年化が進むと考える。また先日行われたチェコのWBC代表合宿においても、県内野球場がほぼ埋まっている中で、改修等を行い受入までこぎ着けた。県内のスポーツ施設が合宿ニーズに応じようと改修を行っていくことで受入体制も整い、全県的なスポーツランドも進んでいくと考えている。そのためのサポートを県観光協会が行っている。

(委員)

- 都城市スポーツコミッションは、アマチュア合宿に対する補助を行っている。また、学生の方だと安い宿泊施設を希望する方が多いので、都城に4箇所ある温泉施設の保養スペースが安くてたくさん宿泊でき、畳もあるため案内している。
- 今年度、初めて千葉ロッテマリーンズの春季1軍キャンプ受入を行い、約5万人の観客に来ていただいた。来年度は、スポーツ合宿と観光をセットにしたモニターツアーを実施し、商品化を進めていく予定。

(委員)

- 情報発信について、ターゲットと手法にずれがないか。先日のメタバースイベントでは、チラシによる周知を確認したが、イベントの特性を考えると、SNS等の活用による周知のほうが好ましいと思われる。

(ひなたプロモーション担当リーダー)

- SNS等の情報発信を主軸として、媒体の特性に応じたチラシ配布も並行して実施するなど、幅広い周知に努めた。

(委員)

- デジタル上の発信等は各自で努力いただき、その上で、高付加価値旅行者の方が望んでいるのは、グーグル等のデジタル上ではヒットしない情報・体験だと考える。そのような方は口コミなどのアナログでの情報も重視していると思うので、情報発信の大切さをみんなが共有する空気感の醸成が必要だと感じた。

(委員長)

- 本日の様々な議論内容を踏まえ、計画の改定に向けて、現計画の残り期間をどう進めていくのか、を考えていく必要がある。

【報告】

<本県の令和8年度の観光施策について>

資料3により、事務局から説明。

(委員)

- どういった取組を行った結果、どういった効果があったのかがわかるようにしていただきたい。

(委員)

- 個別のオーダーを取り入れてツアーを造成しようとする韓国のランド社があるが、そのような取組みに対する支援はあるか。
(海外担当・MICE誘致担当リーダー)
- 個別の補助はないが、観光コンテンツの充実や販売強化を図る委託事業において、支援対象になることはあり得る。

(委員)

- ディープな部分を狙うのか早さを狙うのかでは手法も異なり、またBtoCで成り立つ部分と、BtoCで育てて、BtoBに繋げる部分があるので、分けて取り組んでいただけるとありがたい。

(委員)

- 地元プロスポーツ支援に関連し、「ヴィアマテラス宮崎」は選手が地域おこし協力隊に就任していると聞いており、連携した宮崎県のPRも出来ると良いのではないかと考えた。

(委員)

- インバウンドの人流データ分析については、データだけでは活用が難しく、調査・分析結果を事業者等にも共有いただけるか。
(海外誘致・MICE推進担当リーダー)
- 人流データのほか、人気のある口コミ情報も含めた分析を行い、その結果を県内周遊の交通対策等に生かすことを考えている。HPの掲載のほか、関係事業者に対し直接説明し協議等を行う場を設定する予定。

(委員長)

- 人流データを見ていく中で、ここが増えたらここが増えるといった連動性が少なくなっており、面的な観光が減っているように感じるため、その対策のための活用もお願いしたい。